

開館時間：10時～18時  
(中央館は火～金：20時)  
休館日：毎週月曜日、  
年末年始、その他臨時休館  
(分館は国民の祝日・休日)

# としょかんだより

(中央館) TEL 22-3225 FAX 22-7118  
(夜久野分館) TEL・FAX 37-1066

(三和分館) TEL 58-4715 FAX 58-4716  
(大江分館) TEL・FAX 56-1017



## ほかほか～のおいもだよ～

秋のごちそうといえば、「やきいも」を思い浮かべる人もいないでしょうか。最近ではスイーツとしても人気があり、紫色やオレンジ色、しっとり系、ほくほく系など、たくさんの種類がありますね。

昔は、庭の木の落ち葉を掃除してたき火をしました。たき火の後の灰にサツマイモを入れておくと、弱火でじっくり焼けば甘くなります。たき火の後のやきいもは、昔の子どもたちの秋のたのしみでした。



◆ 参考にした本 ◆

『昔の子どもくらし事典』

本間 昇 / 監修, 岩崎書店

『昔のくらし』

田中 力 / 監修, ポプラ社

『サツマイモの絵本』

たけだ ひでゆき / へん, 農山漁村文化協会

『春夏秋冬の行事と食べもの』

たかい ひろこ / 著, ポプラ社



とくしょしゅうかん  
読書週間・2021 第75回標語

## 最後のページを閉じた違う私



読む前と読んだ後では全く世界が変わってしまった。そんな気持ちになる、本との出会いが、皆さんにも訪れますように！

図書館では、読書週間にちなんだ展示をしています。

10月27日～11月9日は「読書週間」です。



## 幸せな時間はどんなとき？



おいしいものを食べたり、  
誰かのことを想ったり…

本を読んで、いろいろな  
幸せを感じてみてください。

『山のトントン』  
(やえがし なおこ / 作, 講談社)

トントンは山のふもとにすんでいる元気なこまの子。ある日お母さんの作ったドーナツのとりあいでお兄ちゃんとけんかをしてしまいます。

ふたりはお父さんに家をおいだされてしまい…。

読むと、家族みんなでおいしいおやつが食べなくなるおはなしです。

『へんくつさんのお茶会』

(楠 章子 / 作, 学研プラス)

ミルクティー色のレンガでできたおいしいパン屋さん。店主は、みんなから“へんくつさん”とよばれているおばあさんです。ひとりを好むへんくつさんですが、小人や動物たちとのいろいろな出会いや別れをかさねるうちに…。

心がふんわりするやさしい物語。

『犬部！』

(片野 ゆか / 作, ポプラ社)

犬部とは、北里大学獣医学部の学生サークル。行き場のない犬や猫を保護し、次の飼い主に引き渡す活動をしています。犬部は、いつも深刻な人手不足と資金不足。動物だらけのキャンパスライフは、笑い涙と感動がいっぱいです。実録青春ストーリー。

## 図書館まめちしき

やぶれた本の修理

もしも、図書館の本をうっかり破ってしまったり、破れているのをみつけたら、修理しないでそのまま図書館に持ってきてください。セロテープは時間がたつと、黄色く変色してかえって本がいたんでしまうため、図書館では本を修理する専用のテープを使います。

# ★ 児童 おすすめの本 ★

## 『けんだましょうぶ』

(にしひら あかね / 作, 福音館書店)

けんだまが得意なけいくんは、けんだまを持ったきつねに会いました。さっそく勝負を始めると、きつねのけんだまの玉が、ミカンやリンゴに変わって…。ほかにも、たぬきや魔女、てんぐたちの不思議なけんだまと勝負したけいくん。さてさて勝ったのは？

## 『ゴリラとわたし』

(フリーダ・ニルソン / 作, 岩波書店)

わたしはヨナ。施設で育った。ある日ぼろぼろの車でやってきたゴリラに引き取られて、最初は食べられるんじゃないかって心配したけれど、今はとっても楽しい毎日を送っているわ。でも、町の土地開発計画で、住んでいる工場から追い出されそうになって…。

## 『けんか餅』

(桐生 環 / 作, フレーベル館)

江戸の菓子屋『鶴亀屋』で働く11歳の豆吉は、大柄でけんかっ早い若旦那が大の苦手。ところが、店先で客と大げんかをした若旦那が家を出され、豆吉と小さな店を始めることになった。開店初日に客としてやってきたのは、大げんかの相手、辰五郎だった。

## 『捨てないパン屋の挑戦』

(井出 留美 / 著, あかね書房)

食べるとは「いのち」をいただくこと—食べ物を捨てたくない！そう思っている、現実には売れ残りのパンを捨てる毎日。そんなパン職人の田村さんが「捨てないパン屋」となるまでの、苦労や経験を描いた本当のお話。

# ★ ティーンズ おすすめの本 ★

## 『はなの街オペラ』

(森川 成美 / 作, くもん出版)

大正時代の浅草。はなは、奉公先のお嬢さんの歌のレッスンを聞き、その歌を口ずさみながら働きます。ひょんなことから、はなの歌が認められ、思わぬ展開に…！  
逆境の中にある少女が、音楽の力を信じ、音楽に励まされながら明日へと進んでいく物語です。

## 『14歳の水平線』

(椰月 美智子 / 作, 講談社)

誰にでも忘れられないたった一度の14歳の時がある。泣いたり笑ったり、14歳の不安定な気持ちを、友達や父親との関わりの中でやさしく、あたたかく描きます。

## 『山田全自動の落語でござる』

(山田 全自動 / 著, 辰巳出版)

「饅頭こわい」「目黒のさんま」など、古典落語29演目を独特のタッチでコミカライズ。演目ごとに、あらすじ・登場人物も紹介。個性あふれる、どこかにくめない登場人物と、江戸の街の人情あふれる長屋の日常に、クスッと笑えてほっこりします。

## 『学校では教えてくれない自分を休ませる方法』

(井上 祐紀 / 著, KADOKAWA)

「休む」には、なまける、我慢が足りないといったネガティブなイメージがないでしょうか。本当は、体や心の疲れをとるための大切な時間が「休む」ことなのです。本書には、健やかに生きるための「休む」コツが丁寧に解説されています。